

活動成果報告書

平成29年度（第21回）「千代田地域保健推進賞」

活動テーマ

「めざせ！！脱！太っ腹な武豊 幸せの黄色いリボン事業」から広がる児童とその保護者たちへの生活習慣病予防の取り組み

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

武豊町役場 健康福祉部 健康課・保険医療課

代表者名：岩崎 由紀子

勤務先：武豊町役場

所属：健康福祉部 健康課（武豊町保健センター）

所在地：〒470-2334

愛知県知多郡武豊町字中根四丁目83番地

TEL：0569-72-2500

FAX：0569-72-2507



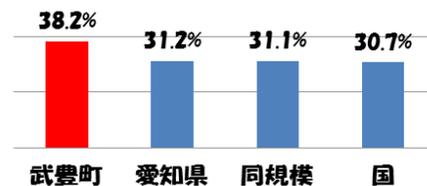
◇活動方針

武豊町では、平成27年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業 データヘルス計画推進事業 パイロットスタディの採択を受け、既存のデータや国民健康保険データベース(以下、KDB)等の統計・分析を進めたところ、生活習慣に関わる沢山の健康課題が見えてきた。

なかでもKDB分析で、本町は「腹囲」について男性85センチ以上、女性90センチ以上の基準値超えをする人が多く、内臓脂肪蓄積のリスクが高いことが明らかになり、しかも愛知県内ワースト1位であることが分かった(平成26年度KDBより)。町民にわかりやすく「めざせ！！脱！太っ腹な武豊」というスローガンで、関係機関と協働・連携しながら「幸せの黄色いリボン事業」を展開することにした。また、地区分析を進めると町内には4つの小学校があるが、腹囲が一番よくなかったのはF小学校地区であったため、F小学校地区へのアプローチを強化していくこととした。

県内ワースト1位！

腹囲基準値超



平成26年度健診・医療・介護からみる地域の健康課題(KDBより)

「幸せの黄色いリボン」でお腹まわりをチェック!



ゼロ 85cm 90cm

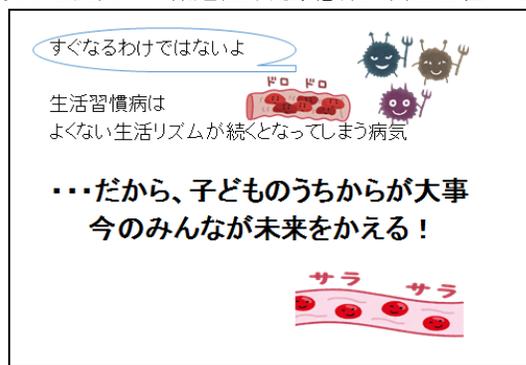
活動成果報告書

◇活動内容とその成果

大人は子供から言われたほうが、健康に関心を持ちやすく健康行動をとりやすいのではないかと、という仮説のもと、まずはF小学校の学校保健委員会で健康教育と啓発をすることにした。生活習慣のアンケート「すこやかカード」の結果を4・5・6年生から成る児童保健委員が発表した後、保健師による生活習慣病予防の健康教育と啓発を実施した。会には3年生、PTA保健部、保護者も来ていた。

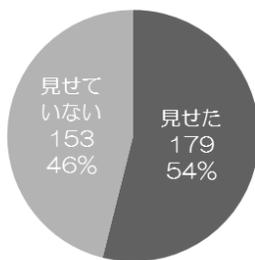
保健師の健康教育指導内容は、①「武豊町の小学生の生活の様子」、②「生活習慣病ってなあに？～今の自分にできること～」、③「武豊町の大人は元気かな？」の大きく3つの内容を盛り込んだ。①「武豊町の小学生の生活の様子」では町内の小学校の中で特にF小学校の児童は朝ごはんを食べている児童が多くとても良いこと、野菜をたくさん食べる児童が少ない傾向にあるので温野菜にして食べると良いこと等を話した。②「生活習慣病ってなあに？～今の自分にできること～」では、特に受動喫煙の害として双子の喫煙者と非喫煙者の写真をみてクイズをし、盛り上がった。たばこを吸っている大人から離れ、自分の身を守ることや、吸う人がいなくなってもその場所に有害物質が残っていることを話した。さらには、サラサラ血よりもドロドロ血の方が血管に負担をかけることを話しながら、生活習慣病は良くない生活の積み重ねでなってしまうため子供のうちからの生活習慣が大事だという話をした。③「武豊町の大人は元気かな？」では、武豊は「太っ腹（腹囲が大きく内臓脂肪がたまっている）」の人が多く、生活習慣病になりやすい町という話をし、校長先生の子供のころの写真クイズをからめながら校長先生に健康でいる秘訣のインタビューや男性85センチの基準値をつけた黄色いリボンを教頭先生の腹囲に巻いて、会場は大いに盛り上がった。

学校保健委員会に来ていない保護者もいるため、「めざせ！！脱！太っ腹の武豊 幸せの黄色いリボン事業」の資料を各家庭に配布した。その配布資料はA4サイズになっており、周囲には切り取り線がついている。それを切ると男性85センチ、女性90センチの印のついたリボンに工作できるようになっている。帰宅後、児童から保護者に今回の話をしたり、作成したリボンを巻いてもらったりすることにより子供から大人への話題性や健康意識の向上を狙った。

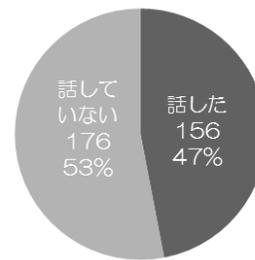


F小学校の協力のもと児童に事後アンケートを実施したが、結果は下記のとおりである。

「黄色いリボンのちらしをお家の人や大人に見せましたか？」



「学校保健委員会のお話を家の人や大人に話しましたか？」



活動成果報告書

「お話の内容で覚えていることはどんなことですか？（複数回答可）」

順位	内容	票数
1位	どちらがたばこをすっている人でしょうか？クイズ	264
1位	わたしは誰でしょう？クイズ（校長の幼少期クイズ）	264
3位	教頭先生がお腹に黄色いリボンを巻いたこと	262
4位	すこやかカードの結果	253
5位	しあわせの黄色いリボン	250
6位	たばこの害と、まわりにいる人への害	245
7位	武豊町の大人はお腹まわりが大きい	238
8位	生活習慣病って？「ドロドロ血」	236
9位	「めざせ！！脱！太っ腹な武豊」	210
10位	健康についてのアンケート結果	208
11位	こどものうちからの生活習慣が大事	198

「黄色いリボン事業のちらしをお家の人や大人に見せたか？」「学校保健委員会の話をお家の人や大人に話したか？」については約5割の児童が実施したと回答し、また、覚えている内容としてはクイズが印象的だったと答える児童が多かった。教頭が黄色いリボンをまいたことは、会場の盛り上がりのおり上位であった。

児童が持ち帰ったちらしや聞いてきたことを話した際の大人の反応については、「腹囲が大きい人が多い町だなんてと驚いていた。」「リボンをまいてセーフだったのでとても喜んでた。」「リボンは怖いから嫌だと言っていた。」「武豊の人たちはおいしいものをいっぱい食べているのかなと言っていた。」「たばこを吸うのはちょっとやめようかな。」等々の大人の反応が得られた。

◇今後の計画

地区分析により、自分の地区はどんな特色があり、どんな健康課題があるのかを具体的かつ明確に出すことができた。地域課題を自分事としながら、子供から大人まで幅広く健康意識の向上を狙えた事業だったと考える。一貫して、町内の公共施設のトイレにも黄色いリボンを設置し、F小学校地区のみならず、町全体で事業を展開したことや、学校保健委員会に来ていない保護者にも具体的な内容を伝えることで効果的・効率的に幅広く啓発ができた。

さらにはこの取り組みをきっかけに、少しずつ学校関係者と話をする機会が増え、地域保健の持つ健診・医療データ、地区ごとの生活文化、環境等を情報共有しながら、子供の健康課題と大人の健康課題を「線」でつなぎ、より健康的な町にするための模索が一緒にできるようになってきた。将来の医療費を支えるのは「子供たち」である。ライフステージや地区の健康課題を見据えつつ、建設的な健康教育をしていくのは今後も喫緊の問題と考えるが、既存の資源に相乗りしながら、学校保健と地域保健が協働・連携していくという「横のつながり」は今後も大きな意味をもつと感じている。

のちに町内のM小学校からも生活習慣病予防とがん教育について実施依頼があり、公開授業の中で行う計画である。公開授業のため、保護者も来校する。子供向けではあるが大人への啓発も可能とし、学校サイドでは外部講師による正しい知識の伝達や新しい風が入ることによって良い刺激がありそうだと言ってくれている。一つの事業から沢山の伏線が出来、手ごたえを感じているが、今後も子供から大人への情報発信力の強さは、より良い町の健康づくりに一役買ってくれる大きな可能性を持つと考えている。